

明日 への 話題

証券会社の 新たな使命 ～インテレクチャル キャピタルの拡大 に向けて～



みずほ証券
取締役社長

いいだ こういち
飯田 浩一

令和の新しい時代、テクノロジーの劇的な進化が人々の暮らしや社会・産業構造に大きな変化を促している。米国や中国がイノベーションをリードする一方で、我が国は、課題先進国として、人口減少、人生100年時代の到来、社会保障と財政の持続可能性の確保などの取組みテーマに直面している。

こうした中、AI、IoT、ビッグデータ等、先端テクノロジーをあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会を標榜する『Society5.0』は、我が国が目指すべき社会の姿として、「骨太方針2019」や「成長戦略実行計画」においても、その実現が前面に据えられているところである。

『Society5.0』が掲げる「人々の創造・想像力の融合によって価値を創造する社会」においては、国や企業の競争力の源泉はバランスシートに表れるものだけではない。人的資源や組織知を含めた無形の価値、いわゆるインテレクチャルキャピタルが大きな意味を持つことになる。

そこでは証券会社にも新たな役割が求められる。証券会社は、資本市場を通じて個人の金融資産をリスクマネーとして企業に供給し、その成長を後押しすると同時に、個人の資産形成に繋げていく使命と責任を担うほか、投資家間の金融商品の売買や企業間のM&A・アライアンスなど、様々な取引を繋ぐ役割も担っている。このように、証券会社は、広く「価値」を仲介する存在であるが、工業化社会から知識社会へとシフトする中にあるのは、「知」を繋ぎ、その価値を仲介する役割が一層重要性を増すことになるだろう。

例を挙げれば、業界の知見を活かした業界を跨ぐ産業トランスフォーメーションの後押し、ベンチャー企業の育成、産官学を繋ぐオープンイノベーションの支援などのあらゆる市場参加者の活動を支える役割。また、自らもビジネスアイデアを持ち、出資等の形で事業に参画していくことも考えられよう。

インテレクチャルキャピタルの重視は、資本市場の観点からは、バランスシート上の情報を超えた、非財務情報の適切な評価をベースにした資本の供給、そして、社会的な観点からは、戦略的なSDGsへの取組み、社会的責任を戦略の中心に据えた企業価値向上の取組み等の後押しということに繋がる。

新しい時代における証券業界の取組みが、世の中のインテレクチャルキャピタルを拡大させ、世の中の発展に寄与することを願っている。